

平成 29 年度地域管理経営計画等の策定及び変更に係る検討会  
委員からの主な意見

1. 地域管理経営計画等の策定及び変更について

(低密度植栽について)

- シカの影響等がある中で、どのようなところで低密度植栽が可能なのかについては、現場現場で見極める必要がある。

(水源涵養タイプにおける施業群の見直しについて)

- 長伐期施業を行う林分の割合が高いように思われる。長伐期林から通常伐期林への見直しについて、今後とも、より一層精査し検討してほしい。

(木材の安定供給について)

- 年間を通して安定的に材を供給することは難しいとしても、一定の期間内の出材量を一定化し、このことを予め情報提供してほしい。

(木材の利用促進について)

- 木材を構造材として使う場合、ある強度の材を発注しても、いつ、どこで、どの値段で、どのくらい量が入手できるのか、よく分からず、使いにくい。日本の山の木を使うことについて、山側からもっと情報提供してほしい。
- 木材の良さを PR し、需要拡大につなげる取組が大事。都会においては田舎では分からない木材の需要があると思うので、色々と見たり聞いたりすることも重要。
- 我が国は木材をたくさん輸入しているが、近年、世界の木材資源国は中国へ木材を持って行っており、日本では木材資源が手に入りにくい状況。日本には伐期を迎え利用できる木材がたくさんある。国産材の未来は明るいと思う。

(伐採から造林までの一貫作業システムについて)

- 伐採から造林までの一貫作業でも、造林のために枝条を片付ける作業は、一定程度必要。

(森林業害虫対策について)

- 薪ストーブの普及によって、広葉樹の薪が域外から入ってくるケースが多くなっており、薪を通じてカシ・ナラの病害虫が入ってくるのが考えられるので、注視する必要。

(生物多様性の保全について)

- 肱川の小田深山は愛媛県内でも生物多様性が特に高いと認識。地元でも保全活動と観光に力を入れている。溪流沿いの森林景観に魅力があるので、溪畔林の保全には配慮したほうがよい。